

平成28年度 新潟市潟環境研究所 第4回定例会議（概要）

日時：平成28年9月29日（木）

場所：市役所本館3階 対策室1

■会議概要

1 報告及び情報提供

- ・「中原邸公開」と「赤塚地域の魅力とお宝展」について（太田和宏/潟環境研究所研究補助員）
- ・内沼潟調査報告（高橋 剛/潟環境研究所外部相談員）
- ・鳥屋野潟公園開園30周年感謝祭について（新潟市南商工振興会）
- ・佐潟20ラムサールフェスについて（環境政策課）
- ・ラムサールシンポジウム2016 in 中海・宍道湖への参加報告（潟環境研究所事務局）

2 （仮称）潟環境研究所活動報告書に関する意見交換について

【説明要旨】

- 市民アンケート調査結果について説明
- 前回に引き続き報告書に掲載する提言に関しての考え方について説明
（「ラムサール条約都市・新潟」の可能性などについて）

【市民アンケートの結果概要】

1) 現在の潟との関わり

①潟のイメージ

- ・新潟市内の水辺（海・川・潟や湖沼）に親しみを感じる人は全体の85%。
- ・潟のイメージ上位3位は「景観が良い」、「動植物が豊か」、「安らぎや憩いの場」。

②潟との直接的な関わり

- ・潟があることを知っている人は97%。潟を訪れたことがある人は96%。
- ・知っている潟、訪れたことがある潟の上位5位は、いずれも「鳥屋野潟」、「福島潟」、「佐潟」、「じゅんさい池」、「上堰潟」の順。
- ・潟を訪れる目的は、「散歩」（77%）、「花見」（72%）が多い。

③潟との間接的な関わり

- ・潟に関して知ることができる博物館等を利用したことがある人
△ ビュー福島潟 54.1%、みなとぴあ 37.0%
▼ 「北区郷土資料館」、「江南区郷土資料館」、「潟東歴史民俗資料館」は10%以下。

2) 潟に関する保全意識や整備について

①潟をより快適な親水空間とするために

- ・必要な整備の上位3位は「遊歩道」、「多目的トイレ」、「無料休憩施設」。
- ・必要な対策の上位3位は「ごみの不法投棄対策」、「トイレ不足の解消」、「駐車場台数の拡大」。

②潟の環境保全活動について

- ・活動に参加したい人は64%。1年間で負担してもよい金額は平均900円程度。

③ラムサール条約について

- ・「ラムサール条約」という言葉を知っている人は83%。
- ・「ワイズユース」という言葉を知っている人は19.5%。
- ・佐潟が登録されていることを知っている人は50%。
- ・福島潟や鳥屋野潟のラムサール登録を進めてほしい人は82%。

④潟に関する調査研究や情報提供について

- ・「潟環境研究所」の活動に対する評価は、「大変よい」46%、「どちらかといえばよい」40%。
- ・潟に関する博物館の整備については、検討してほしい人が47%である。

【所長説明】

■「ラムサール条約都市・新潟」の可能性などについて

・平成28年9月16日に福島潟のラムサール条約登録について北区の自治協議会から市に要請があった。それで2018年のラムサール条約登録に向けた取り組みを着実に進めていくようにとの要請で、新聞では市長も登録推進に前向きな姿勢を示したと報道された。

・佐潟で昨年と一昨年、ヘドロをとる浚渫船を入れた。ラムサール条約に登録されたら、こんなことはできないと想像するかもしれないが、実際は浚渫船を入れることもできる。鳥屋野潟はこれから築堤が始まるが、ラムサール条約登録されても築堤には障害はないと考える。

・もう一度鳥屋野潟と人との関係をどう作り直していくべきかということで、様々なことが試みられている。3年目の鳥屋野潟環境舟運では、車いすカヌーというのが新潟県で初めて登場した。誰もが水辺に近づいて、そこで活動ができるという展開の1つの象徴である。

また、鳥屋野潟漁業組合の協力のもと、鳥屋野潟の魚をレストランで出したことはすごい発想。ワイズユースの1つの形の表れである。

・教育の分野も様々な形で潟との関係が出てきている。清五郎開拓八人衆の像が水と土の芸術祭で作られ、現在、教科書に載っている。地域がかかわりながら維持管理してきているから、存在し続けている。佐潟でも、ラムサール条約登録後の20年間は、教育面で非常にメリットがあった。

・あえてラムサール条約都市といったようなことを言っているのは、世界的な認知を得ることが、ものすごく重要なことになっていると思うからである。海外では、ラムサール条約が世界遺産と同じぐらいに高い評価を得ていて、登録されることが重要だという認識があるが、日本は比較的评价が低い。そのあたりをもう一度認識を新たにすることが必要がある。

・鳥屋野潟、福島潟、佐潟などには毎年シベリアなどからハクチョウが新潟に帰ってきてくれるが、飛来数が横ばいから少し上向き加減であることは、越後平野の環境の良さを象徴している。

越後平野を全部俯瞰して、自然度が世界的に見てかなり高いレベルに存在していると思う。トータルで見たときには、これだけハクチョウやオオヒシクイが帰って来て、冬を過ごしてくれている、そういう環境がある都市だということを世界に発信することによって、日本への評価がいろいろな意味で変わってくるのではないかと。つまり新潟に対する評価も変わってくる。ラムサール条約登録というのは、非常に重要なことだと考えている。

【外部相談員からの主な意見】

・潟の現状と課題を考えるにあたり、市民アンケートでは、快適な親水空間をするための整備や対策についてとあるが、その快適ということは、人間だけ都合がいい形ではなく、自然との共生のバランスが取れるよう、生き物たちにとっても、私たち人間にとっても良い環境づくりをしていくという視点でとらえてほしい。

・十二潟は大部分が民有地。今の湖面以外は、前例から言うと資材置き場などとして埋め立てられた。農地と違い沼地には、規制がないので、すぐ埋め立てることが可能である。今後、無くなるとも限らないので、行政も含め、残していくための方策について知恵を絞れないだろうか。

・海外に比べ日本では、まだ、ラムサール条約湿地登録に対する評価が低いようだが、海外でラムサール条約湿地に登録されたことを活用して、地域のイメージアップや、プランニングに役立っているという事例などが見えてくると、私たちもイメージしやすいし、何かこうすれば良いのだなということが分かると、ラムサール条約登録には前向きに、いろいろな人を誘いながら進んでいけるのではないかと。